

# かえのやく

昭和46年1月25日

題字・先代 藤井得三郎氏

## 一般薬業界

### 団結のとき

森下 泰

(森下仁丹社長)

新年あけましてお目出度うございます。

本年も、何卒あいかわりませず、一層の御引立を賜りますよう御願ひ申し上げます。

「今年は……、本年こそは……」  
と言うのが、毎年頭恒例の辞となっているようですが、本年は言葉ではなく、いよいよ真打ちと言ひ思いを禁ずることが出来ません。

業界をめぐるもろもろの情勢はますます深刻となつてまいりました。これを打ち破つて伝統に輝くわが業界を守り、一層の発展を実現する為には、容易ならざる決意と勇氣と、そして団結による力が必要でございましょう。

昨秋、津村会長様始め皆様の御供をして、西独での「世界大衆薬会

議」に出席致し、「セルフ・メディケーション」の重要性に就て勉強させて載きました。

極端に申せば、人々の知識が医薬に關して非常に高度になった場合、その社会に於ては、いかなる専門の

根本的にあやまりであると申さざるを得ません。セルフ・メディケーションの分野は、文化の進歩に伴つて、より広くより深くなるのが当然であります。

アタリマエのことがなかなかアタリマエに行われ難いが人の世のおきてであります。

その具現には、いかにしても「力」が必要であります。

そして、力は数によつてのみ具体化されるものと思われませぬ。

僭越な申し条とは存じますが、いよいよ真打ちのこの年、業界の皆様様の御発展を御祈り申し上げます。と共に、全体が一丸となつて力強く大きく飛躍せられんことを衷心より願つてやまなひ次第でございませぬ。



「南天」

建林静枝氏

先生も不必要となりましょう。アフリカの土人やテキサスのカウボーイにはその逆が妥当する筈であります。

そして、知識の向上こそ人類社会の進歩であり発展であるとすれば、それにさからういかなる思考政策も

× × ×  
× × ×

# 世界大衆薬会議 に出席して

致心製薬取締役  
薬学博士 石坂 音治

今大会参会の一行は、津村重舎、森下泰、山田安邦、森山喜由、上原昭二、長谷川郁夫、伊藤一美、太田昭、堀内伊太郎、山崎実、石坂音治の計十一名でした。この他に通訳クラウゼ夫人と森下嬢が現地に参加された。事前の世話役として津村重孝氏の御苦労を深謝します。事前のいきさつについては森下、津村さんから情報があると思いますので、今大会、情報の概要を私なりに受けとめた範囲で述べ御参考にしていただきます。

十月十二日と十三日に一般の討議が行なわれ、前日の十一日は展示会、後の十四日の半日は欧州と独乙の年次総会が行なわれ、別に小グループの懇談会がもたれました。従って全会期は十一〜十四日までということでした。今回は地もと西独のバー

デン・バーデンで開かれた独乙大衆薬の年総会と第五回欧州大衆薬年会とに便乗して世界大衆薬大会の準備大会が開かれたことのようにです。日本にとっては各人自由参加ということでしたが、世界大会としては既に第一回に該当するような歓迎の辞でした。と申しますのは、昨年のローマ大会で欧州大衆薬大会 (A.E.S.C.P.) の会長ダニエル・カルベルト氏が将来計画の講述の中で特に国際計画の一として赤十字など国際機関の他に米、カナダ、日本、オーストラリアその他の参会歓迎を明記しておられます。

明年は十一月にロンドン開催決定の由、結果からいって日本も何等かの団体の形で正式加入参会が有意義と考えられます。私自身も是非参会したい希望です。またこれとは別に米、カナダ、日本の密接な国際関係から米バージニア州で明年五月に開催される米主催の大衆薬年会に是非日本も出席されたいとの呼びかけがありました。

十月十日、大会の前日一行は、西独フランクフルトのインターコンチネンタル・ホテルで会合打合せを行ないました。

十月十一日、晴天。一行は早朝フ

ランクフルトから汽車でバーデン・オース着、自動車でバーデン・バーデンのゴルフ・ホテルに向い、旅装をとき、その足で自動車をとばし一時間余でシュトゥットガルト到着、キレスベルグに開催中の独乙薬剤師会主催の医薬品展示会を見学しました。会場は市民公園内の会館を第三



会議場風景 (演壇上の講師)

会場まで部別けして当てられ、デザインは欧州的ですっきりしていたのがより立派で、日本大衆薬が風味、外観、剤形、包装等の点も優れ世界的上位にあることを確認できました。

第一会場のは入り立ての正面に学

生の作った生薬標本もみられました。私の最も驚いたことは、サイクラミン酸ソーダ入「イルゴネッテン」の商標で糖抜き甘味料錠剤が大々的に試飲宣伝されていたことでした。堀内社長と渴をいやすため無料サイビスのコーヒーを試飲しサンプルを入手しましたが、糖尿病、糖不利用時にと明記してあり、通訳女史の答えでは一般の使用は禁止されているとの由、独乙での甜菜糖を常用する甘味不足の事情かとも推測しました。

バーデン・バーデンは温泉地で、保養地だけに風光明媚、森、野花も色鮮かで日本の温泉地とは全く異り閑静な落ち着いた環境で国際会議場としても立派でした。夜のパーティに歓迎親睦の初顔会せが催されました。

十月十二日、小雨。九時過ぎコングレス・ビル会場で登録、パンフレット受埋。参会者約三〇〇名、一四ヶ国位。九時半開会。独、英、仏、日同時通訳。独乙医薬療品企業連合会長ヘルムート・ケップ氏挨拶。欧州大衆薬協会展長ダニエル・カルベルト氏挨拶。米国につき経済大団日本を特に歓迎し将来世界大会へ正式に加盟国たらんことを要望されました。日本製薬連会長鈴木万平



医薬品見本市展示場の石坂氏（中央）

氏からのメッセージを議長から朗読、日本団一行代表として津村重告氏より祝詞を述べられた。日本語の通訳は今後専門語のできる人をほし  
いと思いました。

十時から第一議題「大衆薬の安全性」について討議が行なわれました。先づ会場を暗くして予め作製したスライド様式で解説入りのカラーフル映画約三十分間、照明ののち講師団約九名が発言討論を開始された。講師の大半は医者、その他病院薬剤師、官庁責任者、消費者代表などでいずれも欧州地区の名士でした。聴衆の大半は業界関係者で報道陣の数もみられた。討論はこの種国

際会議としては極めて活発なものでした。

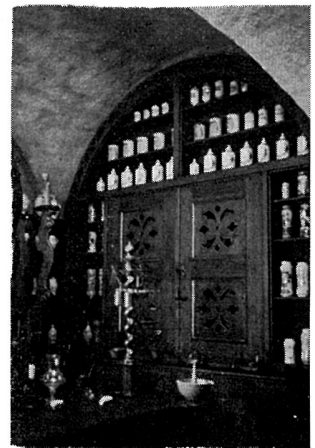
内容は各国とも概念的には日本の考え方実情と類似しているが、具体的品目になると細部の具体処理についても必ずしも同一でないのが、国際上交易について注目されます。しかし今回の討論は一般論が主眼となつたようです。要約しますと、安全性の重要性については各国とも異論のないところで、ただその実地検討に問題があるというのです。例えば現在の医薬品については、動物試験が主体となるので、この場合動物の種類別、性別で毒性の有無また強弱範囲に差がみられます。また動物試験のデータが人体に直結しないという点、安全性の意味からは極めて慎重な問題を含むことが論ぜられました。この点古来の大衆薬は逆に人体直接の体験から淘汰されていてこの点を軽視できないと力説されました。また、遺伝性関係物質、抗菌性剤などは比較的判然としましたが、他の物質については今後の検討にま  
つべき点が多いとされました。  
人体特に小児用の場合、普通薬、例えばアスピリン製剤などでも誤用過用などのないよう留意すべきで、この点包装が小児にあげられず、大

人のみで開閉できる容器の工夫が討議されましたが、この問題は昨年のローマ大会から未解決でしかも極めて必要な日常管理の上で身近かな問題として熱心に討議されほほえましい一幕もありました。

昼食時間に各国の情報通

信の申し入れが行なわれ、午後の大会で日本代表の講師団加入を要望されましたが、今回は一般席から挙手討議の形をとることになりました。

一四時半、コングレス・ビルで、独乙の公衆衛生大臣ケータシュトローベル女史が会長の辞について歓迎の演説をされ、エネルギーな言動で生薬の現代大衆薬への導入復活を強調されそのないご挨拶でした。第二議題「大衆薬の効果」。第一議題の例に慣った形式で進行、日本  
の事情と略同様ですが、法的処理についての考え方は多少異なりま  
す。薬物の作用と効果について解説  
され、大衆薬であっても、作用と効  
果がマッチするものが理想で、作用  
も効果もないものは認められないと  
のことで、作用と効果の判定の条件  
が難事で出来れば分子レベルでの解  
明が望ましく、この点欧州で近年ア



ハイデルベルグ城地下のくすり博物館

イソトープによる解析が新薬の段階で活用されています。二重盲験法で単に推計学によるコンピュータ算出では断定できず、医師对患者の相対的心理の要因を考慮すべきだとの論旨でした。

現在までの臨床医学では、病気の治療はあづかるが、薬品の効果判定を行なうべく教育されていないのが世界一般の情勢で、今後その体系化が要望され、目下米国でもその体系作りが着々進められている由。

行政の管理面からの配慮は行なわれても、先取りは慎むべきで、行政法規が薬効の判定をくだすようなあり方については、自由国家で特に許さるべきものでないとの激しいやりとりがありました。大衆薬は使用者第一に、医者のアドバイスとメーカー側の責任において誤用過用なく自然淘汰によってより活用されるこ





れ、第三国間との問題は非常に難しく、自由化に基づく努力をされています。人権の自由尊重が憲法によって基本的に論ぜられるので難しく、どの経営者も法的バックで行なっています。全く効力がないときは禁止できるが、国は企業を監査できません。州では薬品をチェックしているが、許可を得るということではなく、これら国の調整機関は判定権をもっていません。

薬の効果という判定も困難で、エーデンは複合製剤が非常に多く「1111」以上の効果をもつとき認められます。国がこのような場合の決定権をもつことは不当で、国と企業との話し合いと責任をもつことが重要で、広告についても同様といえます。

△会長の発言▽ スイスの方法はよくない、数世紀にわたった国際間の関係が複雑で、薬品協会、問屋などを統一したが、薬品と問屋は価格をチェックせねばなりません。国は消費者まで統制しています。

△ベルリン保健所長の発言▽ 独乙では完全検査をしています。企業者の件については関係官庁の支配下におきたいのだが、医薬の管理は不十分と思います。各委員会を作つて

医薬業界がはみ出さないようにしたい。登録について主薬、補助剤はその説明書を必要とし、拡大効果の申請は不可で、官庁としては国民の健康を守る努力をしています。効果的チェックを企業者に望みます。

△独乙企業者側の発言▽ 国家統制と自由化については、企業側で責任



レセプションのあつたクールハウス

をもちたい。

安全性について発言があり、全会意見一致がみられました。

△ケルン市代表の発言▽ 薬効の判然としたものは別として、その薬理効果のメカニズムが判然としない場合もあるのです、この場合の解明は不可能と思うので、過去の体験に応じ

て柔軟性をもって対処されたい。

△一般人からの発言▽ 標準的な規定法、効果の出にくいものについての対策、健康者についてある方法で障害を与えて投薬し効果をみるというが、人体実験は非常に困難です。従つて効果を体験する患者の立場でみられたい。患者を助けるのは医者と企業ではありません。一社のみで検査するのはよくない、メーカーにまかせるか否かは社会事情により全く異なります。医学と法規との関係づけの問題は極めて難事です。

名称の問題には、商業上の見方と薬効上の見方があり、官庁側としては後者を望みたい。

二十一時半、クールハウスでDRC SCPR年次晩餐会があり約三〇〇人余の参加者で盛大な交歓が行なわれました。

十月十四日、雨。九時からヘレンホテルで、米、カナダ、日本の特別部会が行なわれ、朝食をとりながらの懇談会になりました。米のコープ、ブライアントの二人、カナダのブラドニー、日本の森下、太田、山崎、長谷川、石坂の五人でした。主として米、カナダ両国の大衆薬事情を質問形式で聴取しましたが、森下氏は一般大会へ出席のため途中から

退席されました。主要点だけを述べますと、新申請医薬品はFDAで国家的にその薬品が医師処方箋要のものか、OTC (Over the Counter) に所属させるのかを決定します。OTC所属になれば各州の権限に属して規制されますが、大方統一されていて、OTCの中でエシカル(薬局向け)にするかプロプライエタリー(大衆向け)にするかは、ほとんどメーカーの自己意志で一方的に行なえます。また同時に両者向けにすることもできます。大衆薬には例えばアルカセルツァー、バッファリン

の様ないわゆるかぜ薬様のもの、胃腸薬、抗ヒスタミン剤、咽喉調整剤、虫よけ、スプレー剤、軟膏剤など多様で、販売場も広汎で例えば青果店、大衆浴場その他自由です。広告については最大級の表現がとられてもよい、ただしFDAに特別部会があつて処方内容また広告の部分チェックを行っています。

その他三国間の関連事情を話し合いましたが、例えばサイクラミン酸ソーダの如き常用量においては科学根拠は少なく全くナンセンスで、米国内で政治斗争にまきこまれた例の由。日本のキノホルムとスモン病の関係で製剤中止の件も話しました。

米国でサッカーが検討中の由でした。明年五月バージニヤ大会への参加を希望されました。

別途に代表団の質問事項を英文、独乙文で事務局へ提出されましたが解答は後日日本へ郵送されることになっていきます。

私なりの結語を申しますと、本大会は各国の情報交換の場で、質疑応答によってより早くより深く実情を把握でき、世界の水準にマッチできる有意義な会議でした。今回の討議からみて、法の規制によることなく医師、薬剤師、メーカーが各自の責任において使用者大衆の保険に寄与することが望ましく、大衆の衛生知識を高め、患者の自由意志による選択と医師の本格的治療へのあなうめとして大衆薬の存在を高く評価したことになります。

医薬品の効果と安全性については、出来うれば分子レベルでの検討が望ましく薬効の判定法の基準化は各国がその具体化と特に心理効果の取扱いに一層の検討を必要とするところが強調されました。日本においても厚生省当局がこの面の基準化作業を一九七一年三月中旬に確立するといわれている矢先だけに極めて意味深い会合に思われました。

## 薬と共に

### 四十有余年

松田金之助

芝の裏店に独立した私ですが不況の風は裸一貫の我身には冷く先輩のいわれた通り時期が悪かったかと悔んでは見たものの一方ではこれだけの東京にこれだけの人口の中で我身一人位食べて行けぬ事もあるまいと悲観と楽観の毎日でした。

同時に主人であった玉置文治郎さんの偉大さがハッキリ判ったのも此頃で四十年後の現在も変りません。

先づ得意先の獲得で地元の芝区からと故人となられた芝薬業会々長峯崎林八様にお近づきを願ひポツポツとあちらの薬局こちらの薬局と忙しくなりました。

殊に毎月一回薬業会の会合がある毎に出席してはお茶を汲んだり雑用の仕事をお引受けしました。

仕入れの方はノソ本舗社長和田増太郎氏が浅草の馬道で現金卸をさ

れており其処で仕入れては配達しておりましたが永くは続きません。

そこでタマゴ薬本舗御主人石沢信義氏にお願ひして帳面払いで仕入れて少々ほっとしました。裏店でも人手が入用になり郷里の兄に相談して遠縁に当る洞井敏兼君が店員第一号としてまいりました。洞井君も永年勤めたあげく独立して大田区に薬局を開設更に一昨年五反田の卸売センターに場所を得昨年春宝来薬品として発足いたしました。これも立志伝



警視庁時代の武田猛氏

中の一人であります。

家も手狭になり愛宕町の現住所へ移転する事になりましたが家賃二十七円は少々お高いので、何とか卸以外に収入の道をと「仙蘇」という漢方貼り薬をロイマチスの特薬として売り出した所早速警視庁より呼び出しがありました。広告違反の件で

散々に係官に叱られていますと部屋の奥の方で電話で応待の音がきき覚えのある声です、思わず電話の方を

眺めると何と軍隊で同班であった現製薬団体連合会の専務理事武田猛さんでした。

何だ武田さんか松田かと思いがけない所での出合でしたがその後永い間、薬業界を併行に歩むとは夢にもおもいませんでした。

武田さんのとりなしで無事にすみ聞かれるままに現在の事を話しますと薬種商という制度があり是非この資格をとれと教えられその年の十月受験して薬種商及び毒劇物をパス、早速店を改造して小売も片手間に始めました。

三ヶ月程してどうやら小売も順調のびてまいりました。卸も地方にのびかけましたが新参の卸には何の箱も裏付もありません。

何とかしてとおもっているうち兵隊時代を思い出し軍御用の資格がどうしても欲しくなりました。早速近衛四聯隊に飛び込み酒保にまいりましたがなかなか係の鍋島中尉が会っ



当時の筆者

てくれません。

暇さえあれば面会を求め一年近く通いました結果、貴様は軍隊を喰物にするのかと一喝されましたが若い頃、近衛にいた事除隊後葉間屋に勤めや々と独立して店を持てた事、是非軍隊に納入させて欲しいと申しますと中尉の態度も変り酒保に現在納入している価格よりも安く出来れば審査の手続きを取るといわれ先づ階段の一步を上りかけたのでした。

身分の保証、国税五百円以上納税という項目でしたが身分の保証は元近衛兵という事でオーケー国税五百円は到底無理です、幸い同班であった安齊君が新橋の処女林に支配人として居り、処女林のマスターが近歩四の出身で当時府会議員でいられたのをお願いしてや々と陸軍御用の門鑑とたすきを渡され夢かと驚くと同時に天にも昇る心地とはこのことをいうのでしょうか。

早速厚司の袷に陸軍御用の文字を入れたのでした。

(東海貿易・社長)

× × ×

## 栄の表彰を

### うけて

二代藤井得三郎

昨年ははからずも厚生大臣表彰を受け、去る十月十四日厚生大臣室に於て葉業功労者として表彰状を授与されましたことは誠に感激の極であります。もとより此の表彰を頂くに至った過去を顧み、決して自分だけの功績ではなく業界各位の多年に亘る並々ならぬ御指導と御支援の賜と深く感銘いたしておる次第であります。

次に同月二十九日に納税功労者として大蔵大臣より表彰を受けることとなり大蔵省にて大臣より表彰状を



頂き次に宮中に参内、皇居宮殿北溜にて天皇陛下に受彰者十一名拝謁賜り次の様な有難き御言葉を頂戴致しました。

「皆は永年の間、納税のことに尽して表彰を受けたことは大変うれしいことと思えます。納税思想の普及と納税貯蓄組合の育成の仕事は地味であるが国家のために大事な事であり、今後も健康で一層努力することを希望します。」

以上の通りであります。簡単な御言葉の中にも国民に対する陛下の思いやりの御心情が判明する様に思われます。我々国民はこれを契機として更に心を新にし業界の為、又、社会公共の為尽力せねばならぬと覚悟を新にいたしました所以であります。

(竜角散会長)

近代工場めぐり (6)

## 救心製薬

東京都・杉並区



昭和四十五年十月二十日に完成したばかりの総合研究所・第二工場から紹介しよう。

場所は、杉並区和田にある製薬本社ビルに近く、商事本社ビルに隣接している。練馬工場の生産増加に伴う施設拡充と研究機関設置の必要から生まれたこのビルは、白亜の鉄筋コンクリート五階建て、アカデミックなしかもモダンなものである。

建築面積三九〇平方メートル、延面積一、六五〇平方メートル、冷暖房設備、電気設備、給排水・衛生設備、自動火災報知設備、消火栓設備など、非常に恵まれた研究、労働環境であ

る。

ビル一階には、エキス製造室、生薬実験室、製品倉庫、資材倉庫、事務室等の各室があり、なかでも、生薬を特色としているメーカーの面目躍如たるエキス製造室の加熱蒸発缶は、エキス生産能率を高め、品質の均一化によくその役を果している。

二階は、打錠室、混合造粒室、糖衣室、艶出し室、調整室、乾燥室等に分れており、近代的装備を導入した諸器械は、将来の量産に因應のものであり、その活動が期待される。

乾燥室は、熱風乾燥機が立ち並ぶ小型乾燥室と、室そのものが乾燥室となつている大型のものがあり、量産と品質保持の体制が窺われる。

三階には、選別室、小分室、包装室及び試験室、分析実験室、分析機室がある。

特に出色なのは、最新の精密機器が備えつけられており、定量、定性分析の場として、異彩を放っている。

四階は、品質管理室、会議室並びに図書資料室があり、品質管理室では、毎日生産された製品の品質管理の完璧を期している。

五階は、薬理実験室、機械室がある。

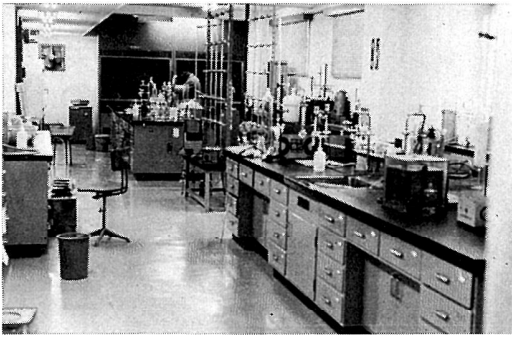
毎週土曜日には、顧問の指導のもと

と生産技術の研究会が開かれ、一方研究開発部長を中心とする研究スタッフも真剣に研究、討議を重ね、新製品開発の場を生かすべく努力を続けている。

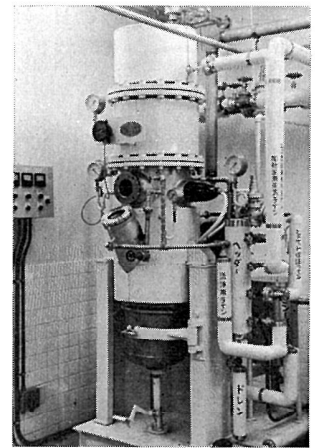
このほか、心臓薬（救心）の製造を主体としている第一工場がある。

第一工場は、救心の原料粉末の製造室と試験室、製丸室、洗瓶室、選別室、小分室、包装室等一貫した救心の製品化並びに品質管理を目的として配置されている。

特筆すべきことは、従業員の健康



分析実験室・試験室



加熱蒸発缶

管理に万全を期し、公害防止とともに、積極的な明るい生活環境を打出している。

現在、会社が最も力を入れているのは救心製造工場の完全自動化である。

生産合理化委員会のプロジェクトチームによって、残された部分の機械化が討議され、着々とライン化が進んでいる。

堅い記事ばかりになったので、ここで少し変わった風情を紹介しよう。

それは第一工場の敷地内に設けられている小さな神社である。

救心製薬の守り本尊で、筑波神社の分神であるイザナミ、イザナギの尊を祭っている。そこには、鳥居、神殿、樹木がこじんまりとまとまりをみせている。



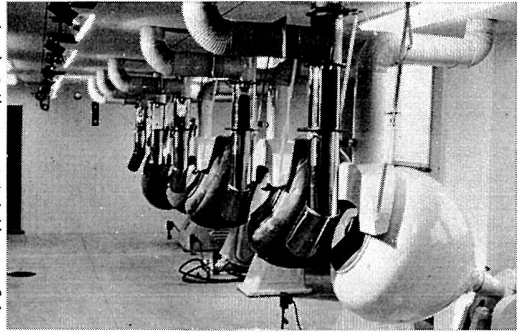
筑波神社

合せてはないか。

古くて新しい心臓薬（救心）の秘密もこの辺に窺えるのである。

中国に生息するシナヒキガエルの皮腺から得られるセンソは、数多くの有効成分が判明しており、その科学性をもった強心効果は世界的に高く評価されている。

社員福利厚生で目についたのは、本社屋上のゴルフ練習場と理容室があることである。



機 衣 糖

ビルの新しさを反映してか、社員は明るく開放的で、家族的ななかなかな雰囲気の中に協調的なムードがただよっている。

華道・書道、囲碁、麻雀各部の文化活動をはじめ、ゴルフ・卓球・ボウリング・ワンダーフォーゲル・ポロ・サッカー・野球部等の体育活動も盛んである。

会社は、春秋年二回、健康の日を定めて「みなさまに健康をお届けする私達が、まず健康でなくてはならない」というスローガンであらゆるスポーツを奨励している。

毎月発行されている社内報「救友」は号を重ねて七十四号にもなっ

ており、縦糸と横糸の役割を果たしているようである。

このように、救心製薬は着々と近代化を進めており、一方では救心の効果を究明した学術映画のPR完成も間近だそうで、大衆薬の発展に前向きな姿勢で取り組んでいる救心製薬の明日を期待しよう。



## 委員会から

### 厚生委員会

本会担当の諸行事も毎回多数御参集を得て益々懇親の実を上げて居ります事は誠に御同慶の至りであります。組合員各位の御協力に對し深く感謝致します。又本年も専心努力致しますので、より多くの御参加、御協力を切望致す次第です。

では昨年開催致しました諸会に付て申し上げます。先づ六月十七日に懇親会を浜松グランドホテルに催し、

## 新製品紹介コーナー

### 太田胃散分包新発売

（株）太田胃散では、昨年十一月より「太田胃散分包」を新発売することになった。

この製品は、アルミ箔ラミネート包装二十一包入りで、太田胃散独特の芳香味と薬質を密封保持できるようになっている。

箱の外側は、防湿セロハン包装で、一包ずつが取出し易いパッケージになっている。

発売は、当分の間、関東地区に限っている。

価格は、二十一包入A価二五〇円 B価一七五円以上。



館聴濤館にて宴会し、翌日ゴルフは浜松シーサイドコースに、又観光は浜名湖周辺名刹廻りと最後に豊川稲荷に参り解散しました。又秋は十月二十九日新賢島荘に催し、当日は大

王崎、あご湾廻りし、夕刻宴会には玉助師匠の江戸情緒を堪能し、一同隠し芸の披露もあって秋の一夕を楽しく過しました。翌日も好天にてゴルフは賢島カントリーに、観光は先づ鳥羽ミキモト真珠島を訪れ、具に見学し次で伊勢志摩スカイラインに

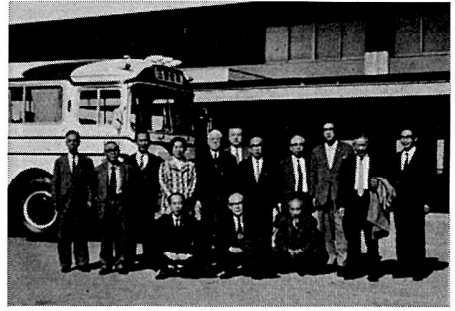
臨済宗の古寺朝熊山金剛寺を廻り

続いて伊勢神宮に詣で、一同心身も清らかに帰京の途につきました。又ゴルフ会は六回催し成績は左記の通りです。

T K G C (ゴルフ会)  
 第四回 四十五年一月二十九日  
 於 武蔵カントリークラブ

優勝 秋山義郎 一等 津村昭  
 二等 津村重舎 三等 山崎寅  
 第五回 四十五年三月十七日  
 於 芙蓉カントリー  
 優勝 市川一雄 一等 堀 正巳





新賢島荘の前で

次に基会は日本棋院中央会館特別室に於て催し成績は左記の通りです  
 第四回 四十五年三月一九日

優勝 島崎辰二 七段格四戦四勝

二等 蛭谷文七 六級 四戦四勝

三等 中島禎夫 二級格三戦一敗

四等 畑 文雄 初段 三勝一敗

第五回 四十五年七月十一日

優勝 水川敏夫 二段 四戦四勝

二等 飯島明正 二段格三戦一敗

三等 笹沢義昌 六級 三勝一敗

四等 建林宏保 六級 三勝一敗

第六回 四十五年十一月十一日

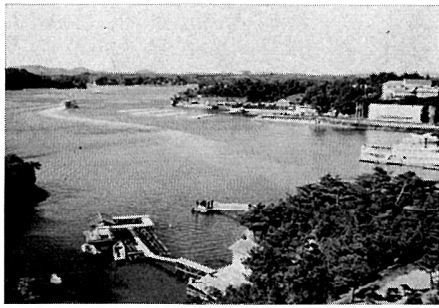
優勝 渡辺吉康 二段格四戦四勝

二等 大竹 豊 六級 四戦四勝

三等 市川一雄 三段格三勝一敗

四等 飯島明正 二段格三勝一敗  
 (町田)

- 二等 太田 昭 三等 常松己一
- 第六回 四十五年六月十二日
- 優勝 於 相武カントリークラブ
- 山崎 寅 一等 山崎栄二
- 飯島明正 三等 友田真二
- 第七回 四十五年八月八日
- 優勝 於 天城高原ゴルフコース
- 市川一雄 一等 飯島明正
- 津村 昭 三等 山崎 寅
- 第八回 四十五年十月一日
- 優勝 於 相模カントリークラブ
- 大島秀元 一等 秋山義郎
- 堀 正己 三等 滝沢英夫
- 第九回 四十五年十一月二十七日
- 優勝 於 保土ヶ谷カントリークラブ
- 堀 俊子 一等 堀 正巳
- 大島秀元 三等 会田 勇



志摩英虞湾



夫人はだしの山崎委員長

事務局だより

●十二月九日午後二時よりヒルトンホテルに於いて東京医薬品工業協会、東京医薬品卸協同組合、東京薬貿協会、東京都家庭薬工業協同組合、四団共催による昭和四十五年度受彰者祝賀会に組合関係受彰者三名会員三十四名が出席盛会であった。

●昭和四十五年度組合関係受彰者

春の叙勲

勲五等瑞宝章 田中 敏明殿

(株式会社東京甲了社 社長)

厚生大臣表彰 藤井得三郎殿

(株式会社竜角散 取締役会長)

東京都知事賞 中尾 義隆殿

(株式会社鈴木日本堂 専務取締役)

●十二月十一日恒例の組合忘年会を兼ね昭和四十五年度受彰者三氏に対する祝賀会及び記念祝品贈呈を組合会議室にて行い盛会裡に終了した。

●異動報告(十二月一日付)  
 東京都衛生局薬事衛生課長  
 新 青柳健太郎殿  
 旧 大和 修殿

編集後記

薬業会多難の年の幕開けに際して、全国一般薬協議会々長である森下仁丹社長の錦稿を頂き、我々業界人としての責任と使命を痛感するとともに、将来に備える相互の連けいを固めたいと思います。その為に海外の情勢をよく知る上で、石坂救心製薬取締役の世界大衆薬会議の報告書を掲載させて頂きました。味読して我々の立場を認識したいと思いません。

東京都家庭薬工業協同組合報

かていやく第十九号

昭和四十六年一月二十五日発行

編集・印刷・発行

東京都家庭薬工業協同組合

東京都中央区銀座東八丁目十五番地二

電話(五四三)一七八六